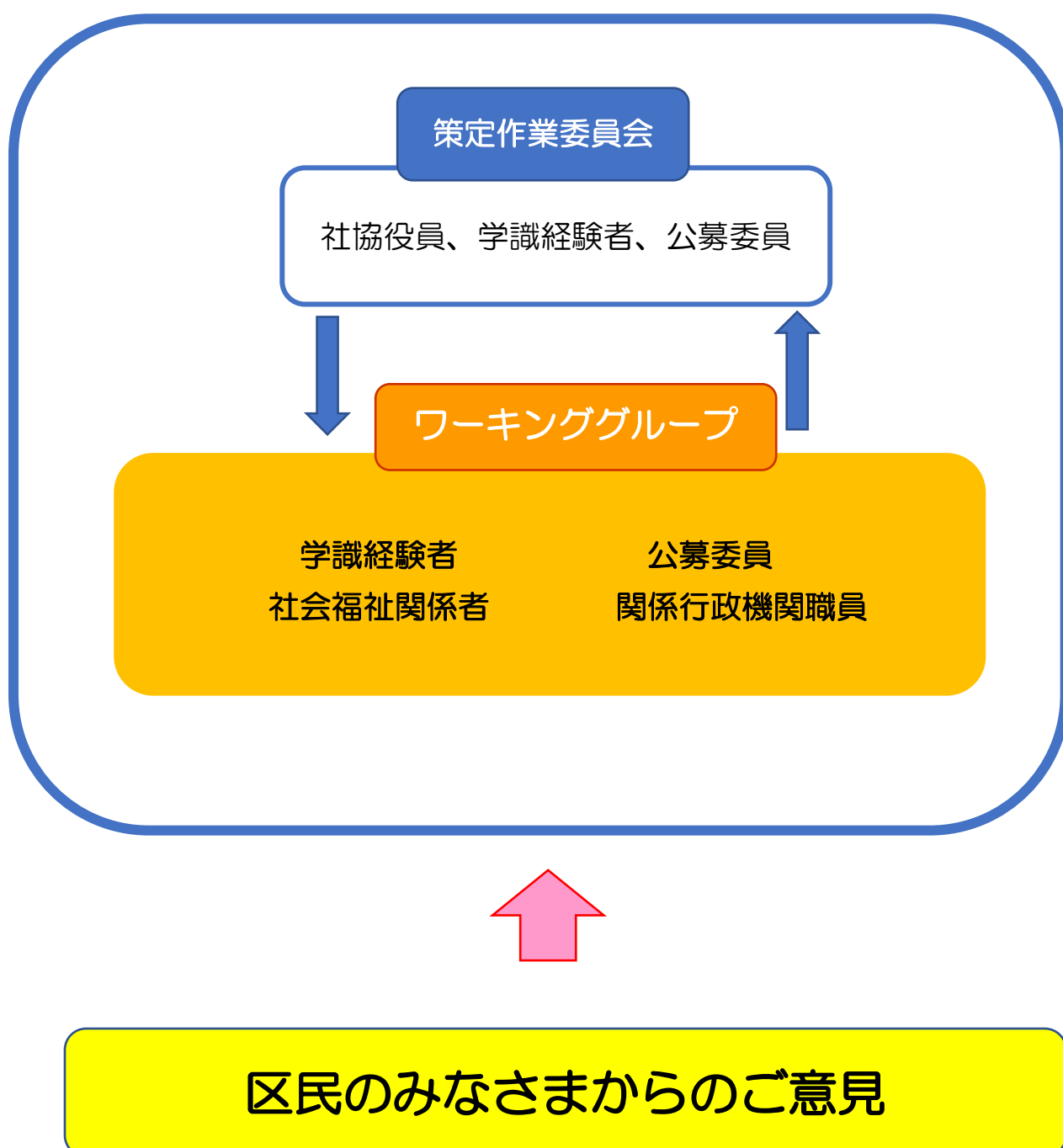


計画策定の体制及び議論の概要

第5次中村区地域福祉活動計画の策定にあたって、本会役員、学識経験者、公募委員による策定作業委員会を設置し、令和5年3月に第1回策定作業委員会を開催しました。また、策定作業を具体的に行う「ワーキンググループ」を設けました。ワーキンググループは、学識経験者1名のほか、公募委員14名、高齢者や障がい者等の相談機関関係者10名、区役所の福祉、保健、防災等関係者5名に社会福祉協議会事務局の14名を加えた合計44名で構成されています。

令和5年12月までに策定作業委員会を2回、ワーキンググループを4回開催して、そこでの議論を中間報告「第5次計画の体系図(案)」として取りまとめましたので、区民の皆様にご報告させていただき、意見の募集を行うものです。



各ワーキンググループの検討内容

<p>テーマ①</p> <p>おせっかいな つながりづくり(仮) ～つながり・つくる～ 例:福祉出前トーク 見守り活動、 パントリー など</p>	<p>コロナ禍を経て地域のつながりが希薄化するなかで、さまざまな困り事を抱えた人たちがいることも改めてわかってきましたが、そうした人や困り事への理解は十分とは言えません。</p> <p>そこで、困り事を抱えた人達のことを知り、お互いさまの風土づくりを進める方法を検討しています。</p> <p>また、地域には困っていることを相談できない、どこに相談したらよいかわからないという人もいます。そこで、さりげない地域での見守りや支援者によるパントリーなどを通じて、困り事を抱えた人達の早期発見やつながりつづける支援を検討しています。</p>
<p>テーマ②</p> <p>なかまとの交流づくり (仮) ～つながり・ふかめる～ 例: ヤングケアラーなど 当事者の組織化、スマホアプリを活用した車いすユーザーの出かける場の情報収集と発信</p>	<p>コロナ禍によって思うように人との交流ができない日々を経験し、同じ想いや境遇の人達と集まり、交流することの大切を再認識することができました。</p> <p>また、引きこもりやヤングケアラーなど居場所がない若者が増えていることもわかってきました。</p> <p>そこで、同じ想いや境遇の人達が集い、交流を通じた仲間づくりを検討しています。さらに、仲間同士の交流や話し合いを経て、当事者ならではの視点での学びの機会や情報発信を検討しています。</p>
<p>テーマ③</p> <p>地域のご縁づくり(仮) ～つながり・ひろげる～ 例:スポーツや食などを通じた外国人との交流 など</p>	<p>限られた仲間だけでの交流や活動では、活動に限界が来てしまい、継続することも難しくなってしまいます。地域にはさまざまな人がいて、さまざまな資源があり、困り事もさまざまです。交流を通じてお互いのことを知り、相談や協力しあえる関係をつくるのが大切です。</p> <p>そこで、福祉に限らず多様な分野の人たちが交流できる場を作ることを試行するとともに、得意なことを活かして、ひとりひとりが活躍できる場をつくることを検討しています。</p>